

橿原市図書館ボランティアの会

ボランティアだより

第1号

発行日 2014年2月4日

発行 橿原市図書館ボラ
ンティアの会

橿原市図書館ボランティアの会は、橿原市立図書館の図書の修理ボランティア（修理班）、おはなし会などでの絵本の読み聞かせボランティア（読み聞かせ班）、市の乳幼児健診でのブックスタートボランティア（ブックスタート班）という3つの活動をしています。

ボランティア活動が始まって6年、図書館を利用されている方のみならず、市民の皆さまに私たちの活動を紹介し、図書館利用や読書活動の一助になればと会報を発行する運びとなりました。初号は、活動紹介と会員一人ひとりがこれまでのボランティア活動を振り返って思うことを掲載します。

「本と子どもをつなぐ人になりたい」

橿原市図書館ボランティアの会

代表 西村 洋子

♪ はじまるよ ったらはじまるよ、はじまるよ ったらはじまるよ・・・

今日のおはなしはなにかな？子どもたちはどんな絵本が出てくるのかと興味津々。

私は、おはなし会で読む絵本は、自分の好きな絵本から選んでいます。まず自分が楽しめる、感動できる本でないと、子どもたちにその絵本のよさが伝わらないと思うからです。

平成24年度には、読み聞かせ班とは別に、市の乳幼児（1歳6ヶ月児）健診で絵本を手渡しするブックスタートをお手伝いをするためにブックスタート班が、新しいメンバーを迎えてスタートしました。私たちボランティアは、図書館職員、子育て支援課の保育士さんと一緒に、対象のお子さんとその保護者に対面式で、絵本を読んで、親子のスキンシップやコミュニケーションの大切さと絵本との出会いについてお話をさせてもらっています。

今では、絵本と一緒にプレゼントした絵本バックを持って図書館に来られる親子さんをよく見かけるようになりました。



読み聞かせ班勉強会にて

赤ちゃんとおはなし会は二部制にするほどの盛況振りで、嬉しい限りです。

本格的にボランティア活動を始めて4年、子どもたちと絵本を介して触れ合うひとときが何より楽しみとなっています。

また、ボランティアの皆さんは、当然年齢も経歴も様々なので、皆さんとの交流もいつも楽しみで、絵本や読書の話だけでなくよもやま話も面白く、大変良い刺激をいただいています。

私にとってボランティア活動は、自分自身への問いかけであります。人様の役に立ちたいなどと大それた考えはなく、逆に、日々の自分の生活に潤いをいただいていると言えます。

最後になりましたが、図書館長さんを始め、職員の皆様にはお世話をかけておりますこと、お礼申し上げます。

「ボランティアとの出会い」

それは、孫との出会いから始まりました。生後2ヶ月の孫を預かり、新米おばあちゃんは、「どうしよう」・・・絵本なら読んであげられるかも。毎週図書館に通いました。でも、まだ数ヶ月の赤ちゃんにどんな本を選んだらよいのか分からず、いつも適当でした。それが、H21年、ストーリーテリング講習会を受講して、講座の内容、先生の一言一言、新しい発見でした。考えが一転しました。絵本の大切さ、奥深さにどんどん図書館の虜になっていました。そして、押しかけるようにボランティアの会に入会、三年目になります。人様に読んであげるなど、おこがましいのですが、これも勉強、今とても楽しいのです。様々な絵本に出会い、ボランティアの仲間に出会い、図書館の職員さんたちと出会い、ここから生まれる発見は、私の宝とです。これからも、いろいろな発見を重ね、成長できればと思っています。

(読み聞かせ班 Tさん)

ボランティアというのは、先人の方々の努力の積み重ねで、今があるということに気づきました。今は、様々な研修会や講座で勉強できることに感謝します。講師の先生方が素晴らしく、内容も深いし、他の団体の皆さんとの交流もとても貴重です。

「自分は何をしたいのか」「どんなことならできるのか」と模索しながらの日々です。

どんな絵本を選べばいいのか、絵本を探すことだけでもいろいろな本との出会いがあり、全部自分に返ってくる気がします。

また、大人になって、本を読んでもらうことなどないですから、手遊びやわらべ歌なども、とにかく、「見たり聞いたり」が一番の楽しみになっています。私も少しずついろんな経験を積んでいけたらと思っています。

(読み聞かせ班 Iさん)

「本に教えられたこと」

私の座右の銘は、「強くなければ生きていけない。優しくなければ生きていく資格がない」レイモンド・チャンドラーのハードボイルド小説に登場する私立探偵フィリップ・マーロウの台詞です。

第二の人生、様々なボランティアをやってみよう。読み聞かせのボランティアをするということで、いろいろな絵本を読むようになり、本から多くのことを学びます。芥川龍之介『蜘蛛の糸』を読んで、どんな動植物でも無暗に命を奪うことはやめようと思ったこと、そして、食事をするときは「命を頂く」という思いを常に忘れないこと、そんなことを改めて教えられました。新美南吉『でんでんむしのかなしみ』では、思い切って積極的に一歩踏み出してみれば、苦しんでいるのは自分だけではなく、むしろ苦悩は多くの人と分かち合える体験であり、同じような苦しみを抱える人々に思いやりを示すことが大切なのだということを教えられました。

(読み聞かせ班 Mさん)

読み聞かせボランティアとなって1年以上経ちましたが、未だにどんな絵本を選んだらいいのか、手探り状態です。でも、自分で読んでもわからなかった面白さが、人に読んでもらうと面白く感じたり、どんどん引き込まれたりします。読み聞かせの良さが少しずつわかりかけてきたと感じています。

図書館ボランティアの皆さんがとても温かくて、肩肘張らなくていい雰囲気心地よく、それが私にとってはとても楽です。そして子どもたちの笑顔が何より励みになります。これからは、積極的に子どもたちに話しかけたりしていきたいと思っています。

そして、たくさんの方のことを教わり、たくさんの方の絵本と出会いたいと思います。

(読み聞かせ班 Nさん)



びっくりするような汚損・破損が！

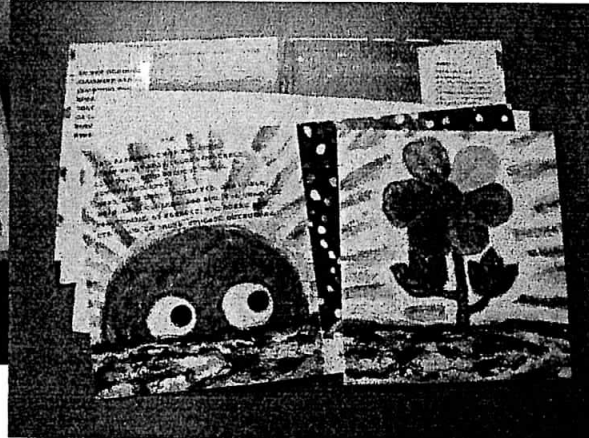
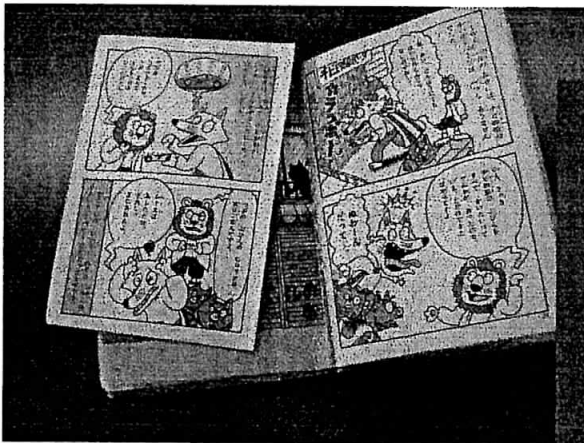
修理班では、できるだけ“手当て”をしますが、中にはどうしてもない場合もあり、まだ十分読めるにもかかわらず廃棄となってしまう本もあります。

落書き メモ書き・・・鉛筆は消えますが、ボールペン、マジックペン、クレヨンなどは消えません。

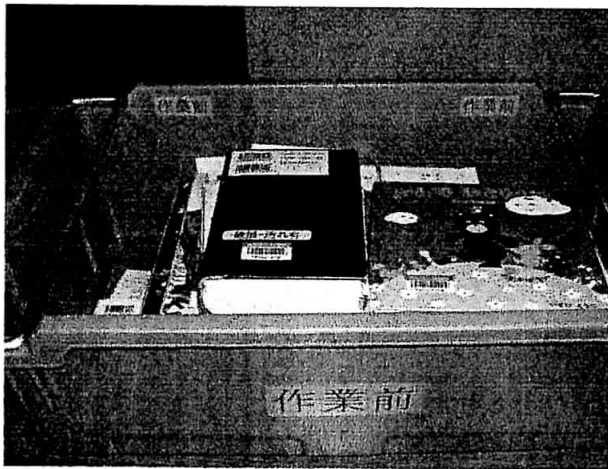
染み 匂い・・・お茶、コーヒー、ジュース、アイスクリームやチョコレートなど、匂いもかなり残っている場合があります。また、ペット（動物）の匂いや正体不明の匂いなどがついている場合もあり、それらはほとんど廃棄になります。

切り取り・・・カッターナイフなどで切り取られていて一見して分からないことが多いです。

修理班では、主に破損の修理をします。特に絵本や児童書、人気の小説や実用書は、繰り返し利用されるので傷みが激しく、何度も修理を重ねる本も少なくないのです。図書館の予算は大幅に削減されてきているとのことで、より長く利用していただけるようにと心を込めて修理しています。



修理を待つ本たちは、左下のようなコンテナに集められています。



このようなコンテナが何箱も！！
1冊1冊、状態を見て、補修テープや接着剤などを駆使し、丁寧に修理していきます。



修理が終わった本は、また棚に返却され、借りられるのを待ちます。

修理班の活動紹介



修理用品(七つ道具！)

本専用補修用テープ、はさみ、カッターナイフ
強力接着剤、輪ゴム、ラベルはがし、消しゴム等

図書館の本を修理させて頂くようになって、友人や孫たちに目新しい本を知らせてあげるなど、本の話が増えて会話が広がります。

また、修理する本は様々ですから、あまり興味がなかった分野の本も読んでみると以外に面白かったり・・・読書の楽しみが変わりました。そして、図書館の利用も、読むから調べる、写す、探す、観ると、“活用”できるようになりました。私は手芸が趣味で、構図を考えるとときにも参考になる本がたくさんあります。

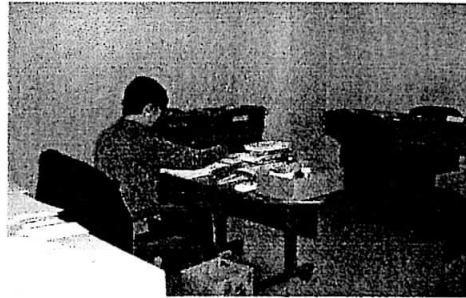
(修理班 Mさん)

私の前を数え切れない程の本が通り過ぎていきます。

修理班に落ち着いてから、専ら破損本と対面しながら、やはり綺麗に修理することを心がけていますが、箱いっぱい修理本を前にすると、できれば1冊でも多く仕上げようという思いで本と格闘していると言ってもよいのではないのでしょうか。

若い時に、本を読みたくても読めなかったという思いが、この活動のきっかけですが、やはり相変わらず読めないものの、ただ図書館を利用しているだけでは決して手に取ることのなかったような本にも数多く出会えて、それは感動です。絵本も目を楽しませてくれます。これから先、どれだけ沢山の本と出会えるかそれがとても楽しみです。

(修理班 Kさん)



黙々と、こつこつと。

私の場合は、活動とまではまだまだ至りませず、年に数回のみで申し訳なく思っております。

でも、わずかな時間ですが黙々と本の山と格闘して、少しでもきれいに、修理が目立たないようにと思って作業しています。

ただ、信じられないような破損や汚損、特に書き込みや線引きがひどく、正直驚きです。

図書館を利用される方には、このような実態もあると知っていただき、できるだけ皆さんが気持ちよく利用できるようにとマナーを守っていただきたいです。

(修理班 Kさん)

昨年12月に図書館で修理ボランティアを始めた1年余りが過ぎました。週1回ですが、修理の仕方などにも慣れて、それなりに充実したひとときを過ごしています。とても地味で忍耐と集中を必要とする仕事ですので、美しく仕上がったときには、自己満足でひそかにニンマリと親指を立てています。

本は、読まれてこそ値打ちがあると思います。一方では読まれれば読まれるほど傷んでいきます。人間の病気と同じで、傷みの軽いうちにちゃんとした手当てをしてやると、本はとても長生きしてくれます。私が一番厄介だと思うのは、セロハンテープのはがしです。紙も一緒にはがれるし、指は粘着剤でべたべたになるし。投げ出したくなります。でもそんな時も、本を病気と見立てて、私がお医者だと思って頑張るようにしています。

電子書籍の時代になると修理の必要もなくなるでしょうが、しばらくは絵本はなくならないと思うので、これからもさらに腕をあげるべく努力したいです。 (修理班 Iさん)

「ブックスタートの活動」を振り返って」

絵本を読んで、手渡しするなかで、いろんな話が出てきて、私自身いろいろ思うことができました。

お子さんに言葉をかけ、見つめ合い、良い絵本があって・・とてもよい雰囲気になってきたと思います。これからもお母さんとお子さんたちとのふれあいのなかで、こころの交流ができればいいと思います。



ブックスタートにて

第2水曜日、おはなし室に赤ちゃんと保護者の方の笑顔が広がります。毎回、たくさんの親子さんが来てくださるようになりました。楽しみにしてくださること、本当にありがたいと思います。

「赤ちゃんとおはなし会」は、いろいろとかたちを変えながら、やっと今、ひとつのかたちになってきました。ご提案をさせていただいてから、図書館の職員さん方には私の知らないところで多くのご苦勞があったと思います。何とか続けていけるよう頑張ってくださいました歴代の職員さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

これからもたくさんの赤ちゃんと保護者の方の笑顔に出会えることを楽しみに、親と子の間に絵本のある生活のお手伝いができるように活動していけたらと思います。

「ブックスタート」が行われるようになり、本当によかったと思います。

(読み聞かせ・ブックスタート班 Kさん)

「赤ちゃんとおはなし会」から」

「赤ちゃんとおはなし会」を中心に活動させてもらっていますが、「初めて来たんですけど・・・。」という言葉を書くたびにうれしくなります。

幼い子とお母さんやおうちの方が、たとえ1冊だけでも目をキラキラさせて絵本や紙芝居に見入ってくださる姿、わが子が見入るのをびっくりして、また微笑ましく見守るお母さんの姿、図書館職員に絵本の相談をするお母さんの姿、人と本をつなぐ様々な場面を「おはなし会」で見ることができます。自分がそこに関わっていることがうれしく感じられます。

より多くの方に、本の良さ、図書館の良さを知ってもらい、もっと図書館を利用してもらえればと思って活動しています。

(読み聞かせ・ブックスタート班 Eさん)

思い起こせば、十年前は、保健センターの1歳6ヶ月児健診の狭い待合場所で、ある程度人数が集まったところで、文庫のおばちゃんたちが健診の合間に絵本の読み聞かせをし、絵本の紹介をするという格好でした。前列のお母さんは熱心に見てくれたりするけれど、後列の人は見えにくいし聞こえにくいので知り合い同士の井戸端会議になったりして、ほんの一部の人にしか伝わっていなかったように思います。今は、ブックスタートのための部屋があり、図書館職員さん、保育士さん、ブックスタートボランティアとそれぞれ対面での対応になり、お母さん方も落ち着いてお話を聞いてくださるようになりました。

最後に『市立図書館に是非いらしてください。何より親子で絵本を楽しんでください。きっと絵本は子育てを応援してくれますよ。』とお母さんにお話し、お子さんにバイバイをします。「この子たち、心も身体もどうぞ健やかに育てられますように」と祈りつつ・・・。

(ブックスタート班 Fさん)

「水曜日の小さなお客様」

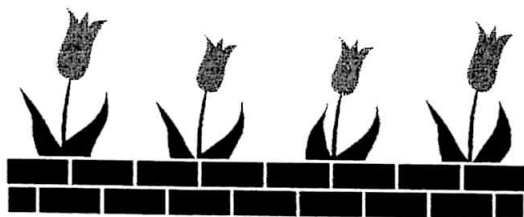
水曜日 10時、乳幼児コーナーにボツボツ小さなお客さんが訪れる。

今日のこの子はどういう気持ちかな、と様子を見て推し量る。図書館慣れしていて少しも気後れすることのない子どもでも、自分で本を選んですぐその世界に没入することもある。しばらく気乗りしない様子でいることもある。初めて図書館へ来た子どもは何か知らないところへ来たぞと緊張し、遠くから警戒気味で観察している。ここは楽しいところかもしれないと思ってもらえるまでは近づかないでチラチラと愛想をふりまく。そのうち安心感や親近感が生まれてくることもある。うまくいかないときもある。そういう時、絵本のコーナーであっても絵本にこだわらず楽しく過ごして帰ってもらってもいいかなと、最近はややく考えることにしている。TVでお馴染みのキャラクターの出てくる本にだけぱっと反応し興味を示す子には上手にその興味を絵本の世界に広げられたらいいと思うが、勉強不足でこれからの課題だと思う。

この時期の子どもは、本当に瑞々しい感性に溢れている。ティダリクの絵本を聞き終わった3歳児が「水を全部吐き出したティダリクは大丈夫？」と、ティダリクが心配でたまらない様子。ある1歳半女児は、ママに叱られたりママのご機嫌が悪いと『くっついた』の本を黙ってママのところに持ってくるそうです。

小さなお客様が、このコーナーでお気に入りの本に出会い、絵本の一場面やお話の中の一言を人生の心の宝にすることができれば、本当に嬉しいです。

(読み聞かせ・ブックスタート班 Fさん)



読み聞かせ班活動紹介

○おはなし会

毎月第1・3土曜日 午後3時～(約30分)

(第1・・・概ね3～5歳対象)

(第3・・・小学生以上対象)

〈場所 図書館おはなし室〉

○赤ちゃんとおはなし会

(乳幼児とその保護者対象)

毎月第2水曜日 午前11時～

午前11時30分～

(どちらも約20分)

〈場所 図書館おはなし室〉

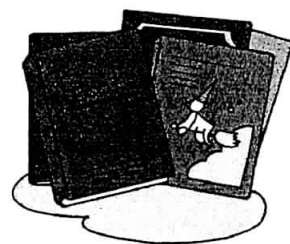
○みんなで楽しむおはなし会

毎月第1日曜日 午前11時～(約40分)

〈場所 かしはらナビプラザ4階ゆめおーく〉

○勉強会 (毎月1回)

好きな絵本や気になる絵本を持ち寄って、読み合いをします。



編集後記

ボランティアだより第1号をようやく発行することができ、ほっとしています。

暦では「立春」ですが、まだまだ寒波がやってくるようです。インフルエンザも猛威をふるっているとのこと。健康なればこそそのボランティアですから、風邪やインフルエンザには十分注意して、図書館通いに励みたいと思います。

